

バクトリア王国ヘルマイオス王の貨幣をめぐって
—ゼウス座像の源流と放射状の冠—

吉池孝一

1. ヘルマイオス王の円形貨幣

古代文字資料館はヘレニズム期及びクシャン朝の貨幣を幾つか所蔵する。その画像は当館のサイトで紹介しているが、未紹介のものもある。今回は、バクトリア王国最後の王ヘルマイオス(前75-前55年)の小型銀貨を紹介しつつ、ゼウス座像の源流や、ゼウスが被る放射状の冠について感想を述べる。同種の貨幣画像は Mitchiner (1975)に多数掲載されている。珍しいものではないが、裏の図像は比較的細密な状態で残っており比較の一助となるかもしれない。径は14.92~16.25mm、厚さは1.91mm、重さは1.71g、材質は銀とみられる。



表

裏

図1 ヘルマイオスの小型銀貨(古代文字資料館蔵)

2. 銘文

表の銘文はギリシア文字によるギリシア語。裏の銘文はカローシュティー文字によるインド語(プラークリット)。次のように読む。

表ギリシア語: 上 basileōs(王の) sōteros(救済者の) / 下^{改行} [er]maioy(ヘルマイオスの。王名の属格となっている)
「救済者たる王ヘルマイオスの」

裏インド語: 上 maharajasa(大王の) tratarasa(救済者の) / 下^{改行} heramayasa(ヘルマイオスの。王名の属格となっている)

「救済者たる大王ヘルマイオスの」

表ギリシア語の王名初頭の[er]は、字形の確認は困難であるが、Mitchiner (1975)の同種の貨幣画像により復元し得る。表 basileōs(王の)や裏 maharajasa(大王の)で始まる行は、貨幣の内側より外側を見るように文字が並んでいる。表と裏の王名属格の行は、貨幣の外側より内側を見るように文字がならんでいる。ギリシア語もインド語もちょうどQのように、一行目は上側にあり、二行目は下側にある。バクトリア王国の二言語併用貨幣の大方は、円形のもの2行、方形のものは1行となる。銘文の内容は表裏共にほぼ同様である。また、表裏共に王名の属格を持つ。これはバクトリア王国の典型的な二言語併用貨幣である。

3. 図像

Mitchiner (1975)Volume3にある同種の貨幣図像の解説によると、表は右向きの王の肖像、裏は長い笏(権威を象徴する杖)を持つゼウスの座像であるという。表は王の肖像で良いとして、問題は裏である。何に依ってゼウスと特定するのかということについては特段の説明はない。左手に長い笏を持ち、右手を前に差し出している。椅子に座り正面から見て左前を向いている。全体の形は、次に示すアレクサンドロスの銀貨に類似している¹。発行地を示すマークが椅子の下にある。Price (1991:460-468)によると、このマークは発行地がバビロニア(現在のイラク)であることを示すという。



表



裏

図2 アレクサンドロスの銀貨(古代文字資料館蔵)

貨幣の表は、ライオンの頭皮を被ったヘラクレスとされる。裏はゼウスの座像とされる。椅子の後ろにギリシア文字による発行者名が [A]ΛEΞANΔPOY (aleksandroy アレクサンドロスの) とある。左手に長い笏を持ち、右手を前に差し出す。手のひらには翼を閉じた鳥をのせている。この鳥は、ゼウスの聖なる鷲とされる。

4. ゼウス座像の源流

¹ 本貨幣は、Price (1991) v.2 に掲載されている貨幣番号 3661b に近い。なお、発行地を示すマークについては Price (1991:460-468) v.1 に詳しい。

アレクサンドロス以前のマケドニアに神の座像の貨幣は、Sear(1978;reprinted2002)に掲載された貨幣画像による限り、見つからない。どのような経緯でアレクサンドロスの銀貨にゼウスの座像が導入されたか問題となる。この問題にかかわる文献に Richter(1966)がある。Richter(1966)は、ギリシア、エトルリア、ローマの家具について論じたものである。この中で、ギリシアの椅子を4つのタイプに分けるのであるが²、そのうちの1タイプとして“回転した装飾の脚を持つ玉座 (Throne with turned legs)”があり、3つの資料を紹介する。



図 3



図 4



図 5

Richter 1966 による

一つ目は、イタリア南東のアプリア出土のアンフォラ（二つの取っ手付きの壺）のゼウスとされる座像（図 3）。左手に笏を持ち差し出した右手の上方に、両翼を広げた勝利の女神ニケが飛ぶ。二つ目は、エピダウロス（地名。ペロポネソス半島東部）発行のアスクレピオス（ギリシア神話の名医）とされる座像（図 4）。この貨幣は、Sear(1978;2002)の貨幣番号 2809 によると、前 350-前 330 年頃に Epidauros で発行された銀貨。裏のアスクレピオス座像は左手に笏、右手に大きな蛇を持つとある。右端に地名の初頭を示すギリシア文字がある。三つ目は、図 2 と同種のアレクサンドロスの貨幣。ゼウスとされる座像（図 5）は差

² “That the throne was also used in private houses, at least of the wealthier class, is indicated by the inscription listing Alkibiades’ belongings, where it is mentioned among the household furniture (II, 145, 236; cf. Pritchett, *Hesperia*, XXV, 1956, pp. 217 ff.); and by its appearance in daily life scenes on vases.

This literary and inscriptional evidence is reinforced and amplified by the representations on monuments. They occur in Greek vase-painting, on reliefs, in bronze, terracotta, and ivory statuettes, and occasionally as marble seats in theatres and sanctuaries. From their study one can distinguish four types of thrones: (1) Those with legs ending in animal feet, (2) those with turned legs, (3) those with rectangular legs, and (4) those with solid sides, each type going through clearly defined stages of development. Generally speaking, however, the type with animal feet appears to be the most popular in the archaic period, whereas those with turned legs and with rectangular ones occur with greater frequency from the fifth century on. The fourth type, with solid sides, though there are early examples (cf. p. 28), becomes common only in the Hellenistic period, and has survived especially in the stone seats placed in theatres and sanctuaries.” (p.15)

し出した右手に鷲をのせる。ゼウスであるかアスクレピオスであるかは、差し出した右手に何を持つかによって判断するしかない。

Richter (1966)は椅子の類似について述べただけであるが、貨幣研究家の Price 氏は Price (1991v.1:28)において、Richter(1966)の資料を利用し、アレクサンドロスの貨幣にあるゼウス座像と、イタリア南東のアプリア出土のアンフォラのゼウス座像は、関係があるとした³。アプリア出土のゼウス座像の年代を前4世紀の第3四半期とする Richter(1966)の説が正しいとしたならば⁴、アレクサンドロスとはほぼ同時代となる。“長い笏を持ち椅子に横向きに座り、差し出した右手の上方に女神ニケがいるゼウスの座像”のモチーフが当時のギリシア世界に受け入れられていた事を示す。もっとも、ゼウス座像のモチーフが壺のデザインなどとしてギリシア世界に在ったということと、それを貨幣の図像に採用することの間にはやや懸隔がある。その懸隔を埋める資料として諸神の座像の貨幣がある。

ゼウス以外の諸神の座像の一つとして図4のアスクレピオス神の座像を挙げる事ができる。発行年について、Richter(1966)は、前370年頃とする説を紹介する⁵。もっとも、Sear (1978: 260)には前350-前330年とある。いずれにしてもアレクサンドロス(前336-前323年)の貨幣よりも時代はやや早い。右端のギリシア文字E(e)は地名の Epidauros に関わるものであろう。アスクレピオス神の座像とアレクサンドロスのゼウス座像の違いは、差し出した右手に持つものである。笏を持つ神の座像の貨幣はアスクレピオス神に限らない。東方のアケメネス朝ペルシアで発行された貨幣にも同様の神の座像がある。いま Mitchiner (2004:650-660)によると次の通りである(図6)。



図6 アケメネス朝ペルシアの貨幣

Mitchiner (2004:651)によると、これは Pharnabazes (前379-前374年) という地方長官 (satrap)

³ “An Apulian amphora in the Louvre displays a figure of Zeus with his hand outstretched to receive a flying Nike. This and the throne were of sufficiently marked similarity to the figure of Zeus on the Alexander coinage for Richter to place the two illustrations together, even though the coin chosen came from the mint of Ecbatana in the far east of the empire.” Price (1991v.1:28). 引用文中の“Richter”は Richter, G.M.A.(1966).

⁴ 脚注 “16. N 2817 (K 127). ‘Ornate Apulian; by the Darius Painter; third quarter of the fourth century B.C.’ (Trendall).” (p.22).

⁵ “The same leg design occurs on the seat of Asklepios on a coin of Epidauros¹⁸ (fig. 74), of c.370 B. C., which has been interpreted as reproducing the chryselephantine statue of Asklepios by Thrasymedes of Paros (cf. Pausanias II, 27); note the dog lying under the chair.” 脚注“18. H.N.² p.441; *Guide to the Principal Coins of the Greeks*, Br. Mus. p. 42, pl. 24, no. 47.” (p. 22).

が Tarsus (現在のトルコ。地中海の東の端に面する) で発行したものという。Baal 神が横向きに椅子に座り右手で笏を持っている。椅子の背後に、アケメネス朝の公用語であるアラム文字・アラム語の銘文がある。右から左に Ba'AL (Baal) TaRZ (Tarsus) と記されているという。このような諸神の座像の貨幣は、地中海一帯に広く分布しており、その諸神をゼウスに入れ替えて作った図像が、アレクサンドロスの銀貨のゼウス座像である、と予想を立てることができる。

5. 笏を持つ神の座像の分布

公表されている貨幣の画像を資料として、笏を持つ神の座像の分布の“概略”を示すと次の通りである。座像でありさえすれば、椅子の上でも、岩の上でもよいとする。

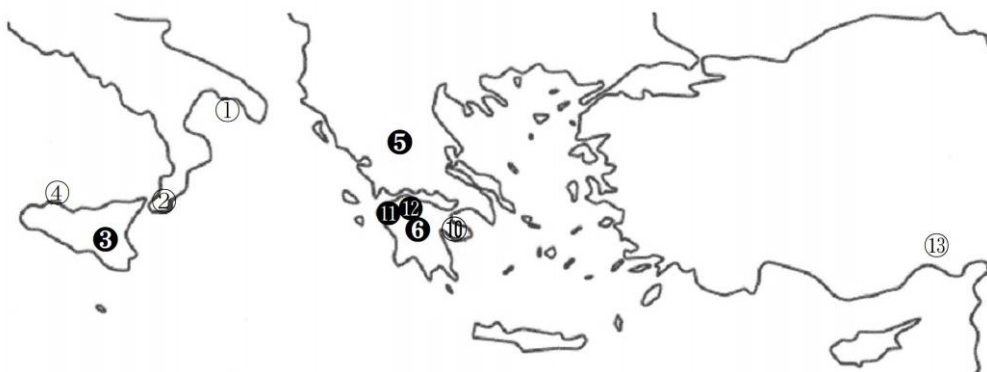


図 7. 座像分布図 (ゼウス●、諸神○)

⑦⑧⑨と⑭⑮⑯⑰⑱は重複するため、分布図に書き込んでいない

貨幣の図像中の神の座像の分布を確認するにあたって、ヨーロッパとアジア・アフリカのギリシア系貨幣 7,957 枚を掲載した Sear (1978;2002) (1979;2017) を利用した⁶。

⁶ 資料は次の通りである。①329、②498 などの、329 や 498 は、Sear (1978;2002) (1979;2017) に付された貨幣番号である。

■ Italy

①329 Taras 発行、前 460-420 年、銀貨。裏：男性座像・左向き・右手に糸巻棒・右手に左手に笏。表：銘文 tarantinōn。

②498 Rhegion 発行、前 466-415 年、銀貨。裏：都市創始者座像・左向き・右手に職杖。裏：銘文 RECINOS reginos。

■ Sicily

③784 Galaria 発行、前 460 年頃、銀貨。表：ゼウス座像 (椅子)・左向き・右手に鷲を頂上に乗せた笏を持つ。表：銘文 soter (右から左)。裏：銘文 CAΛA gala。

④881 Panormos 発行、前 415 年以前、銀貨。表：ポセイドン座像 (岩の上)・右向き・右手に三つ又のほこ (制海権の象徴)。裏：カルタゴ文字 sys。

■ Northern Greece なし

■ Central Greece

⑤2082 Gomphi / Philippopolis 発行、前 350 年頃、銀貨。裏：ゼウス座像 (岩の上)・左向き・右手に笏。左側に雷霆がある。裏：銘文 philippopolitōn。

6. 地中海一帯の分布

Sear (1978;2002) (1979;2017)に依る限り、アレクサンドロス以前に、マケドニア王国を含むギリシア北部にゼウスの座像の存在を確認することはできない。どのような経緯でゼウス座像がマケドニアにもたらされたかが問題となる。●の座像をゼウスとしたが、それは、笏を持つと共にゼウスの聖なる鳥とされる鷲を身近に置くことよりわかる。③・⑤・⑥(⑦⑧⑨は分布図では省略)・⑪・⑫である。このうち⑤と⑪は岩に座るがそれ以外は椅子に座る。

さて、●(ゼウス)と○(諸神)の分布であるが、一定の特徴を見て取ることができる。③を除けば、●(ゼウス)は中央に集中する。アレクサンドロス以前にマケドニアに神の座像はないことより、アレクサンドロスのゼウス坐像は、直接には、③・⑤・⑥(⑦⑧⑨)・⑪・⑫の貨幣図像が契機となっていたと想定する。興味深いのはゼウス以外の諸神である。○(諸神)の坐像は、①・②・④・⑩・⑬(⑭⑮⑯⑰⑱は分布図では省略)にみられるように、地中海の北の沿岸に沿って、西から東のはずれまで広く分布する。このような分布をどのように理解するか。私は諸神の坐像の出現の方が、ゼウス座像よりも時間的に古い

■ Peloponnesos

⑥2672 Arkadia 発行、前 480-465 年、銀貨。表：ゼウス座像(椅子)・左向き・左手に笏・右手に鷲。裏：女神アルテミスの頭像(方形の金型)・左向き。銘文 a/r (r は鏡文字)。

⑦2674 Arkadia 発行、前 465-455 年、銀貨。表：ゼウス座像(椅子)・左向き・左手に笏・伸ばした右手上方に飛ぶ鷲。裏：女神アルテミスの頭像(方形の金型)・左向き。銘文 arkadikon (右から左)。

⑧2676 Arkadia 発行、前 465-455 年、銀貨。表：ゼウス座像(椅子)・左向き・左手に笏・伸ばした右手に蛇・右手上方に飛ぶ鷲。裏：女神アルテミスの頭像(方形の金型)・左向き。銘文 arka。

⑨2677 Arkadia 発行、前 465-455 年、銀貨。表：ゼウス座像(椅子)・左向き・左手に笏・伸ばした右手上方に飛ぶ鷲。裏：女神アルテミスの頭像(方形の金型)・右向き。銘文 ARKADIQON arkadiqon (右から左)。

⑩2809 Epidauros 発行、前 350-330 年、銀貨。裏：アスクレピオス座像・左向き・左手に笏・右手に蛇。銘文 the。

⑪2866 Elis 発行、前 452-432 年、銀貨。表：ゼウス座像(岩の上)・左向き・伸ばした右手に鷲・右肩に笏がもたれかかる。裏：銘文 FAA fal。

⑫2968 Achaean 発行、前 370-360 年、銀貨。裏：ゼウス座像(椅子)・左向き・伸ばした右手に鷲・左に笏。裏：銘文 axaiōn。

■ The Cyclades and Crete なし

■ Asia Minor

Black Sea Area, Western Asia Minor なし

Central and Southern Asia Minor

⑬5641 Tarsos 発行、前 379-374 年(アケメネス朝地方長官 Pharnabazos の時)、銀貨。表：パール(Baal)神座像・左向き・右手に笏。銘文アラム文字 Baal tarz。裏：銘文アラム文字 Pharnabazu khilik。

⑭5645 Tarsos 発行、前 378-362 年(アケメネス朝地方長官 Datames の時)、銀貨。表：パール(Baal)神座像・右向き・右手に笏。銘文アラム文字 Baal tarz。裏：銘文アラム文字 Tadmnu。

⑮5647 Tarsos 発行、前 378-362 年、銀貨。表：女神アテナ座像・左向き・右手に笏。裏：銘文 tepsikon。

⑯5650 Tarsos 発行、前 361-334 年(アケメネス朝地方長官 Mazaios の時)、銀貨。表：パール(Baal)神座像・左向き・左手に笏。伸ばした右手に鷲。銘文アラム文字 Baal tarz。裏：銘文 Mazdai。

⑰5651 Tarsos 発行、前 361-334 年、銀貨。表：パール(Baal)神座像・左向き・右手に笏。銘文アラム文字 Baal tarz。裏：銘文アラム文字 Mazdai zi al Ebernahara vu Khilik。

⑱5652 Tarsos 発行、前 361-334 年、銀貨。表：パール(Baal)神座像・左向き・右手に笏。銘文アラム文字 Baal tarz。裏：銘文アラム文字 Mazdai。

Cyprus なし

ことを示すと考える。なお、⑩の Epidaurus 発行のアスクレピオス（ギリシア神話の名医）座像は先に提示した図 4 に相当する。⑬の Tarsos 発行のバール神（セム族の神）座像は先に提示した図 6 に相当する。以上に依り、アレクサンドロスのゼウス座像の出現のまでの経緯を、Ⅰ地中海一帯の諸神座像→Ⅱギリシア中央部のゼウス座像→Ⅲマケドニアのゼウス座像の順に成立したと想定する。このような流れの中に、バクトリア王国のヘルマイオスのゼウス座像を位置づけ、そのうえで、ヘルマイオスのゼウス座像を見直すこととする。

7. ヘルマイオス発行貨幣の座像はゼウスか

アレクサンドロス発行貨幣のゼウス座像は、ヘレニズム世界に、少なからぬ影響をもたらしたと想像するが、ヘルマイオス発行貨幣の座像はゼウスなのであろうか。問題は、ヘルマイオスの貨幣の座像は、差し出した右手に何も持たないことである。これは個別の貨幣の出来事ではない。Mitchiner (2004:227-237)には図 1 のヘルマイオスの貨幣と同種のものが数多く収められている。その何れに依っても差し出した右手は何も持たない。先の分布図の箇所を確認したアレクサンドロス及びそれ以前のゼウス座像（③・⑤・⑥・⑦・⑧・⑨・⑪・⑫）は、差し出した右手の上もしくは身边に鷲をおくことより一目でゼウスであることがわかる。しかしながら、ヘルマイオスのゼウス座像には鷲も女神ニケもない。そうであるならば、ゼウスと決定することはできない道理である。

8. ヘルマイオス発行貨幣のゼウスの特徴

図 2 及び図 5 のアレクサンドロスの貨幣と、図 1 のヘルマイオスの貨幣を、再度比較すると、アレクサンドロスの貨幣のゼウスは何もかぶっていない。分布図で見た③・⑤・⑥・⑦・⑧・⑨・⑪・⑫のゼウスも何もかぶっていない。ところが、ヘルマイオスの貨幣のゼウスらしき神は、何かをかぶっているように見える。図 1 では明瞭ではないが、Mitchiner (2004:227-237)の同種の貨幣によると、ゼウスの放射状の冠には変種がある（図 8, 9, 10）。



図 8 頭部に長い線(414 の l)



図 9 頭部に短い線(414 の j)



図 10 頭部に点(414 の n)

図 9,10 の冠が、図 8 に帰する単純な変種であるのか、それとも、何らかの事実に基づく変種であるのかが問題となる。しかし、これだけを見ても解決には至らない。

9. ヘルマイオスの方形貨幣：放射状の冠をかぶった王の肖像

先にヘルマイオスの円形貨幣の状況を確認した。ヘルマイオスには方形貨幣もある。Mitchiner(1975)により方形貨幣を確認すると次の通り。

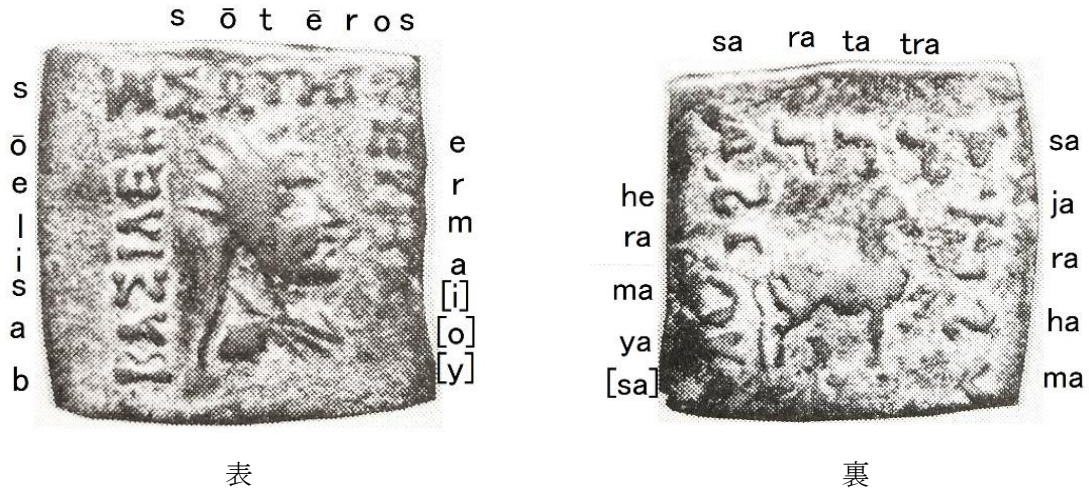


図 11 ヘルマイオスの方形貨幣(Mitchiner1975 の 417 による)

銘文は円形と同様である。表はギリシア語で、左 basileōs(王の)、上 sōtēros(救済者の)、右 ermaioy(ヘルマイオスの)とある。裏はインド語で、右 maharajasa(大王の)、上 tratarasa(救済者の)、左 heramayasa(ヘルマイオスの)とある。表裏共に一行であり銘文は□のように配置される。方形貨幣が一行であるというのはバクトリア王国の二言語併用貨幣の典型である。問題は表の図像である。Mitchiner(1975:233)は“長い光線を放つ王冠”(King’s cap radiate with long rays)とする。興味深いことに、次の様なやや異なる類似した図像もある。



図 12 ヘルマイオスの方形貨幣(Mitchiner1975 の 416 による)

Mitchiner(1975:233)は“短い光線を放つ円錐形の王冠をかぶっている”(wearing conical cap with short rays)とする。図 11 と 12 の頭部の突起が、何を象徴しているのか、Mitchiner 氏の述べるように光なのか否か、これだけでは何とも言えない。しかし、へ

ヘルマイオスが二種の王冠をかぶっていることは興味深い。先に見たゼウス座像の冠には、図8 頭部に長い線、図9 頭部に短い線、図10 頭部に点の三種があった。ヘルマイオスの冠を、ゼウスの冠を模したものと想定するならば、ゼウスの図8は長い光線であり、図10は短い光線である。図9はその何れかということになる。もともと、Mitchiner(1975:233)は、長い光線と短い光線とするが、光線を象徴することが明らかになるまでは、長い放射、短い放射、と呼んだ方が良いかもしれない。

図8,9,10の変異は、長い放射と短い放射の存在という事実を反映したものと想定する。最初に見た資料館蔵の図1の冠は、長い放射を反映した図像、と見て良いのであろう。ヘルマイオスの貨幣を見ただけでは、“王とゼウスは、長短の放射を持った二種の冠をかぶっているらしい”ということしかわからない。そもそも、何故王と神は放射状の冠をかぶるのか。神の冠は、驚やニケ女神のようにゼウスであることの指標の一つになるのか否か。放射状の冠をかぶるのはゼウスだけなのか、それとも他の神もかぶるのか。明確な事は一つわからない。

10. おわりに

今回はここまでとする。次回は範囲を広げて調査をしたい。Narain (2003:241-242)はメナンドロス王以降の諸王を、貨幣の図像により五群に分ける。その内、第四群の図像がゼウスに関係するものであり、この群にヘルマイオスが入る。第四群のゼウスはどのようなか。次いでさらに範囲を広げ、バクトリア王国のゼウス及び諸神の状況はどのようなかを調査したい。関心は尽きないのであるが、この文章の最後の段を書く際に、バクトリアの神の放射冠について議論したと思われる文献があることを知った。下記の書籍である。まだ入手していないが、タイトルに「ゼウス、輝く空の神 (Zeus, God of the Bright Sky.)」とあるので、ゼウスの放射状の冠についての論考ではなかろうかと期待している。期待はしているが、本稿の議論は既に時代遅れとなっているかもしれない。そうであるならば、次回の範囲を広げての調査は不要となる。しかし経緯の一端は書いておこうとおもう。

Zeus, a Study in Ancient Religion, Vol. 1: Zeus, God of the Bright Sky. Classic Reprint. Forgotten Books 2018, Arthur Bernard Cook.

【参考文献（発行年順）】

- Müller, L. (1855) *Numismatique d'Alexandre le Grand, suivie d'un appendice contenant les monnaies de Philippe II et III*, Copenhagen. S. Gardiakos (1981) *The Coinages of Alexander the Great I*, Chicago: Obol International 所収による。
- Richter, G.M.A. (1966) *The Furniture of the Greek, Etruscans, and Romans*, Phaidon Press, London.
- Michael Mitchiner (1975) *Indo-Greek and Indo-Scythian coinage*, Volume I, II, III. London :

- Hawkins Publications.
- Michael Mitchiner (1976) *Indo-Greek and Indo-Scythian coinage*, Volume V, VI, VII. London : Hawkins Publications.
- Sear, D. R. (1978,1979) *Greek Coins and Their Values*. Volume 1: Europe (1978), Seaby, London, Reprinted 2002. Volume 2: Asia and Africa (1979), Spink, London, Reprinted 2017. VOL.1 は 2002 年版、VOL.2 は 2017 年版による。
- 荻原雲来・辻直四郎(1979)『漢訳対照 梵和大辞典』新文豊出版公司、1979 年影印。
- Price,M.J.(1991) *The coinage in the name of Alexander the Great and Philip Arrhidaeus : a British Museum catalogue* v.1,v.2. London : British Museum.
- 田辺勝美編(1992)『[平山コレクション]シルクロードのコイン』講談社。
- 水野弘元(1994)『パーリ語辞典〈二訂版〉』春秋社。
- Glass,A. (2000) *A Preliminary Study of Kharoṣṭhī Manuscript Paleography*. w e b 上に公開されたものによる。 http://depts.washington.edu/ebmp/downloads/Glass_2000.pdf
- A. K. Narain (2003) *The Indo-Greeks: Revisited and Supplemented*. B.R. Publishing Corporation, Delhi, 4th repr. with suppl. もと 1957 年。
- Mitchiner, M. (2004) *Ancient Trade and Early Coinage*,V.1. Hawkins Publications, London.
- 森谷公俊(2016; 2019)『アレクサンドロスの征服と神話』(講談社学術文庫 2350) 東京 : 講談社、2019 年第 6 刷による。
- 前田耕作(2019)『バクトリア王国の興亡 —ヘレニズムと仏教の交流の原点—』ちくま学芸文庫。もと前田耕作(1992)『バクトリア王国の興亡』(レグレス文庫)第三文明社。